令和7年度　大津市真野小学校　学校評価書　　　A;大変良好　B;良好　C;やや課題あり　D;改善の必要あり

赤い部分「評価の観点」につきまして、総合評価と提言等宜しくお願いいたします。

評価項目							今後の学校改善に向けて	
項目	番号	評価の観点	教職員	関係者	総合評価	現状・取組実施状況	改善策	関係者提言等
主体的・対話的で深い学び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	B	A	B	・児童の学びに向かう姿勢が高まっている。焦点化を大切にして、授業の前半で全員が今何を学んで、今日何をすればいいのかと同じ方向を向く仕組みや、全員が分かる授業展開を大切にしていくことが、基礎基本の学力に結び付いている。	・「やってみよう」「もっともっとやりたい」という思いを大切にする。 ・「聴く」クラスづくりを学校全体で徹底して取り組む。 ・子どもたちが笑顔で安心して過ごせるように互いのよさを認め合えるようにする。	・教育目標は幼・小・中それぞれが関連したものとなっており、長期的な視点でみても効果的だと感じます。一方で、抽象的なので、学年・学級ごとにより明確な目的がもてるような経営が大切だと思います。 ・自分が好き　人が好き　真野が好きの精神が学校内外に浸透している。 ・授業中、先生に対する言葉遣いを改善していただきたいです。休み時間とのメリハリをつけられると良いのではないでしょうか。 ・授業参観では、授業工夫がよくみられました。 ・リーダーシップの取れている子が引っ張る分には問題ないが、やや苦手な子が進めることについてうまくいってるか。
	2	協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用、体験活動含む）	B	B	B	・自分の言葉で思いを伝えることができるようにすることをめざしている。 ・自己表現力をのばす。教師の指示待ちの姿勢の児童から自分から学ぼうする子どもをめざした。 ・校内研でも共有化に焦点をあて、意識して取り組んだ。 ・ICT機器の活用により、個別最適な学びに取り組めた。 ・地域学校協働推進員を中心に、こいあげ、150周年まのっこスマイルフェスティバル　栽培活動、町探検、福祉体験、昔の道具体験、平和学習等、今年度も多様な体験活動を実施した。多くの地域方々の協力を得ることができ、児童の成長につながった。	・人の意見を「聴く」クラスづくりが大切。学校全体で徹底して取り組めたらと思う。 ・全学年で統一の学び方の型やルールなどがあればよいと思う。 ・個人差を埋めるためにどうすべきかを考える必要がある。日々の積み重ねが土台となるため、学校全体で共通して取り組む何かが必要である。 ・教育のユニバーサルデザインの推進を継続し、どの子もがわかる授業づくりをめざす。	
	3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施（読書活動含む）	B		B	・自分で考える宿題や校則の取組は真野の児童実態に合っている。 ・「教育のユニバーサルデザイン化」とすることで、どの子もがわかる授業をめざし研究することができた。 ・学習のめあてとゴールを示すことで、主体的に学習に取り組む姿が見られた。 ・あおぞら文庫や朝のお話会など地域ボランティアの読み聞かせは児童の読書活動の充実につながっている。	・「やってみよう」「もっともっとやりたい」という思いを引き出す授業改善に取り組む。 ・主体的・対話的で深い学びになる学習活動についての実践発表や交流する場を設定するとより教師間で高め合うことができるのではないかと思う。 ・主体的・対話的で深い学びを追求するなら、校内研究のテーマにつなげるとみんなが同じ方向性で意識できる。	
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	A	A	A	・生命尊重やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を高めるため、道徳科を中心に全教育活動で取り組んだ。いじめ事案の未然防止・早期発見につながった。 ・教育相談週間では、アンケートから個々の悩みに早期に気づくことができた。放課後の時間を設定し、子どもの気持ちを丁寧に聴き取り、子どもに寄り添えるような機会になった。	・学校生活の場面において、道徳の時間との関連を意識させることで道徳的実践力を高めるようにする。 ・人権週間では、学習した内容に立ち返れるよう、取組内容を児童の実態に合わせる。人権週間で取り組んだ子ども達の思いや考えがわかる作品を掲示し啓発を行う。	・いじめはいけないとわかっている子が多かったので、日々の指導が伝わっていることがわかりました。 ・いじめは見当たらないと思われる。 ・道徳教育の授業の実践ができていると思います。 ・道徳なのか学活なのか分からない授業内容も見受けられたので、道徳的価値とねらいを明確にするよう心がけてほしいです。 ・地域とのつながりを積極的に推進していることは、心も育ち、とっても良いことだと思う。
	5	ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	B		B	・道徳教育については、模範解答を出させるだけではなく、自分自身で深く考え、もっと揺らぎのある授業作りに取り組んだ。 ・教科書で教えることに意識を置き、道徳的価値に迫る指導方法を研究している。	・研修で学んだことを学校全体に共有できれば良かった。 ・価値に迫る発問を精選する。教科書で教えることを毎時間積み重ねていく。 ・子どもたちの心の変容をどのように評価するかを共有し道徳実践力につなげていきたいていきたい。 ・各学年の提示資料をまとめ、次年度に活用していく。	
	6	保護者等への道徳科の授業公開	A	A	A	・9月の参観日で全校一斉に道徳の授業をすることで、1年に1回は必ず保護者に見てもらえた。保護者の教育活動への理解が深まった。	・来年度も道徳参観授業は9月で行い、教師の研鑽にもつなげる	
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	B	A	B	・体育の授業では、運動量が確保でき、また運動の楽しさを感じられるように授業を組み立てるようにした。 ・多様な動きのパターンの運動を取り入れ、運動量を確保できる、活動内容を意識して行った。	・指導の工夫や子どもたちの運動量を確保する授業改善をめざす。 ・系統だったカリュラムの見直しを図る。 ・体を動かす心地よさを味わわせ、休み時間も練習したくなるような授業づくりを目指す。	・元プロ野球選手のお話を聞いたり、プロスポーツ選手に教えてもらったりする経験は、運動の楽しさに気づく良い機会だと思うので、今後も積極的に呼んでほしいです。 ・身体的にたくましい体を育てることはたやすいが、精神的にたくましい心を育てること（特に男女差）が100％に努められているかが課題。 ・コロナ禍以降、給食後の歯磨き指導がおろそかになっているように思います。生活衛生面で毎日の昼の歯磨きは子どもの歯の健康を保つだけでなく、歯ブラシをうまく使う練習にもなるので、改めて家庭からコップと歯ブラシを持ってくるよう指導する必要があると思います。
	8	体力づくりを推進する運動実践	B	A	B	・朝のストレッチは、児童が楽しく参加できた。 ・朝のストレッチなど、子どもが楽しんで体を動かせるような動画を作成しているが、今までのものをどんどんストックして、毎年繰り返し使っていく。	・外で体を動かすことを全校に進める活動の充実が課題である。 ・朝のストレッチは子どもたちが意欲的に取り組んでいる。体育の宿題や朝のストレッチは継続していく。 ・体力づくりは、生涯にわたって重要だと思うので、家庭でも意識してもらえれば良いかと思う。	
	9	生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	B	B	B	・体力づくりは、生涯にわたって重要だと思うので、家庭でも意識してもらえれば良いかと思う。 ・体育委員会や学年、クラス等での取組などを活用し、体を動かす心地よさを体験させられるようにした。	・外遊びを推奨し、運動が苦手な子どもたちも体を動かす習慣につなげていく。 ・家庭を巻き込んだ取組や体育委員会活動の取組など、進んで体を動かし高め合う場面を設定する。	
指導改善（組織的・計画的）	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	B	B	B	・ベースは話を「聴く」。その上にUD化の授業。話が聴けていたか、そのための手立ては有効であったかも、意識した。 ・「できた」「分かった」につながる授業をめざし、各教員が研鑽を積むことができている。 ・ICT機器を効果的に活用し、互いの考え等を交流する場面を授業の中で意図的に設定している。	・校内研修では、講師を招聘して学ぶ機会を設け、指導力を高められるような工夫を行う。 ・全教職員で児童の課題を共有し、どのような手立てが有効であったかを検証しながら指導改善を行っていく。	・勉強が好きな児童が多くて驚いた。学校だけでなく保護者、地域が密接に関わっていけばもっと良い結果が出るのではないか。 ・学力向上に向けて結果の出る工夫や改善をもう少しとられてもよいのでは。 ・学力の向上は誰もが望んでおります。全国の平均レベル以上になることで先生方はもっと厳しい指導体制が必要と思っています。働き方改革も重要ですが、逃げることなく頑張ってほしい。教育が充実すればおのずと学力も風紀も良くなると思います。 ・長期休みの宿題が少ないと思っています。"書く"ことが多くなる中学校での学習の基礎づくりを小学校のうちにしっかり身につけておいたほうがいいと思います。
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	B		B	・OJTを活用した研修会を計画的に実施したので、ベテラン、中堅、若手がその域を超えて、学び合える職場風土ができた。 ・学習面・生活面・生徒指導等、チームで対応する指導体制を構築できた。 ・あらゆる課題に対し組織的に対応することができたので、職員が孤立することなく、心のゆとりも生まれた。	・個に応じた少人数指導や教科担任制や学年内での授業交換等は、組織的な教育力向上として有効に機能したので、継続する。	
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	B	B	B	・会議や研修など必要最小限で実施していると感じている。その生み出した時間で個々の教員が意識を高めるための研修や教材研究ができればよいと思う。 ・無理のない働き方ができるように意見を出したり、それを取り入れて変えるところは変えたり、ということができている。 ・Tetoruでのペーパーレス化、留守番電話対応等による職務の効率化や、行事の適正化など、働き方改革を推進することで、児童との時間を大切にすることに努めた。	・教員の指導力の向上と働き方改革の両方を目指すことに難しさを感じている。指導力の向上に時間を割くために働き方改革を推進していくことが重要だと考えている。 ・勤務時間を意識した働き方、業務内容の精選化、効率化、スリム化に向けた取組を行う。教師の余裕が子どもの安定にもつながったので継続する。	
家庭・地域との連携	13	子育てや家庭教育に対する 保護者への積極的な支援	B	B	B	・様々な家庭環境をもつ子どもや、その背景をどのようにしたら学校が支えていくことができるのかは、更に検討が必要だと思う。 ・保護者の悩みを理解し、SC、市役所の担当部署やこども発達センター等の専門機関と保護者をつなぎ、支援策を講じた。	・今後も子ども支援コーディネーターや教育相談担当やを中心に支援体制を確立し、必要に応じて、関係機関と保護者をつないでいく。	・スマホ・通信機器は速いが、皆が使えることが前提になっておいる。紙でほしい人もいるのでは。 ・ホームページについて「真野小学校ホーム」では、丁寧に様子を伝えてくださっているのでよく分かります。しかし、「各学年の様子」はほとんど更新されていません。様子をアップできないのであれば、項目を削除すべきだと思います。 ・学校内で先生が進んでおられる内容について、保護者にしっかりと伝える施策も必要ではと思います。 ・保護者を恐れないで自分の信念を持って子どもに対応して欲しいと思っています。子供とは一線を引く事が大切で、友達ではない事を忘れないで尊敬される先生になって下さい。
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	A	A	A	・地域と学校との連携が、地域学校協働活動推進員を中心に取れていると思う。保護者と地域との役割を整理して、取り組んでいきたい。 ・テトルで、校外学習や宿泊学習の様子、その他様々な情報をタイムリーに発信たことは、保護者の安心に繋がったと思う。また、子どもたちのために、学校に協力してくださる地域の方々がたくさんいてくださることが本当にありがたく、こいあげ、夢プロジェクト、地域の名人さん、昔のくらし、栽培の補助等などでの地域方々の協力によって、子どもたちの学びが深まった。	・交流は進んでいるが、カリキュラムまでは踏み込めていない。地域学校協働活動推進本部との組織的、継続的な連携をさらに進め、より効果的な取組を発展させ、指導の充実を図りたい。 ・来年度も引き続き、学校、保護者、地域の役割を整理してそれぞれが責任を持てるように方向づけたい。 ・学校のホームページ、学校便りや学年通信等により、情報や教育活動の広報を引き続き継続する。	
	15	防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	B	A	B	・火災、地震、引き渡し、シェイクアウト等の避難訓練を年4回実施した。 ・防災、非常変災や不審者など、児童に危険が及ぶ場合には、登下校の見回りや安全指導などの安全確保に努めた。	・毎年危機管理マニュアルのPDCA化を図り、保護者や地域と連携しながら安心・安全面についての活性化を図っていく。 避難訓練を通し、「自分の命は自分で守る」という一貫した指導を防災教育の中に浸透させ、	
保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	B	B	B	・保幼小連絡会、小中連絡会を行い校種間連携を図った。 ・5歳児と5年生との5・5交流、幼稚園児への出前授業や中学校教員による出前授業等の行った。	・複数の保育園、幼稚園等と中学校とのやりとりとなるので、双方の窓口の連絡を簡略化し、効率的に連携を進められるようにする。	・保幼小中との交流や教員の出前授業は、多くの保護者はその内容を知らないと思います。年に数回でもいいのでどういった内容なのかを、伝える機会があればと思います。
	17	校種間の授業公開や合同研修会	B	B	B	・真野中学校区教育研究会では、今年は保護者も参加を呼びかけ、「子どもとSNS」をテーマにスマホやゲームが児童に及ぼす影響への知識と対応についてを理解を深めることができた。深めた。また、共通の課題が確認できる場になった。	・保幼小中の各校園の教員が互いに保育・授業を参観し目指す子ども像を具体的な姿で共有し、「学ぶ力」の向上を図る機会を定期的にもつようにする。	
	18	保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	B		B	・今年度は、積極的に真野幼稚園と連携を図り、めざす子どもの姿を共有しながら、「保幼小架け橋プログラム」の作成に努めた。	・引き続き来年度の完成をめざし、接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究を見直す。 ・5月までに担任と保幼の担当が連絡を取り合いながら、入学直後の支援を効果的、計画的に行う。	
生徒指導体制の充実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導　※	A	A	A	・まのっこルームの運営は、子どもの受け皿になり、子どもの思いに寄り添い、教育相談担当と担任、保護者で連携を図ることでスムーズな運用につながっている。子どもに合わせる教室環境整備、関係機関への連携にも尽力を注ぐことができた。 ・まのっこルームという居場所があることが、とっても大事だと改めて感じた。養護教諭、支援員も積極的に関わり、いろいろな方面からの児童へのサポートの充実につながった。	・これからも教師が一人で抱え込まず、教職員同士での共通理解を図り、組織で対応する。 ・今年度の敏速な事案対応を活かし、未然防止を徹底する。	・生徒指導等、組織的に対応していただいており安心しています。学年により対応の難しさもあるようですが、難しいからこそ地域と連携し、ともに育てていければと思います。 ・生徒に個別の対応をされていると思うが、先生間でも温度差はないかも検討する必要があるのでは。 ・いじめについての発言は会議には出ていませんが、現実はあると話は聞いています。隠ぺいはせずにいてください。 ・いじめはないと思う。不登校がないことが、その証。
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進※	B		B	・生徒指導では、解決に向かうように、迅速かつていねいな初期対応を心掛けた。 ・アンテナを高くもち、いじめ見逃しゼロを目指し、児童の変化を素早く察知することができた。 ・「教育相談週間」を年間2回実施し、全児童を対象に担任と個別に話をする機会を設定した。・些細な変化も共有できるよう、報連相をしっかりと行い組織対応に努めた。	・放課後は、学校の教職員全体で、児童の気になる様子についての情報共有を行い、一人ひとりの子どもを見守っていくよう心がける。 ・教職員間や管理職、子ども支援Co、養護教諭、教育相談担当など常に情報共有しやすい環境を構築し、組織的に対応できる体制を整える。	
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	B	A	B	・スクールカウンセラーや教育支援センターなど巡回相談などの活用に努めた。 ・関係機関と情報を共有し、諸課題について専門的な立場から助言をいただくなど、対策の充実を図った。	・学校運営協議会で、学校の現状から見える課題を共有し改善に努める。 ・保護者や児童が気軽に相談できるよう、必要に応じて関係機関につなぐ。 ・関係機関との連携を図り、専門的な立場からの意見を指導に生かしていく。	
特別支援教育の充実	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	B	A	B	・個別の指導計画については、活用を頭に置いて作成し、個に応じた支援の充実に努めた。 ・前期・後期で保護者と面談を行い、成長を喜びつつ、課題を共有し、さらなる学びの充実をめざし支援を考えることができた。 ・めあてや支援の手だてなどについて、特別支援コーディネーターと担任が一緒に考える機会を持った。	・個別の指導計画については、児童につけたい力を明確にし保護者の願いを大切にしながらともに作成する。 ・今年度見直しを行った内容に準じて、3月に担任が翌年の前期計画を立て更新していく。 ・保護者への有効なアプローチができるような体制作りに努める。	・個別の教育支援計画及び特別支援教育はどのように取り組んでいるのかわからない部分が多いので、可能な範囲で伝えていただけるとより正確に評価できると思います。
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	B	B	B	・講師を招聘し、学校全体で研修の場を設け、教育的配慮を必要とする児童の支援について考えていくことができた。	・年度当初には、特別支援学級担任による、理解教育を行う必要がある。 ・校内就学指導委員会を定期的にもち、特別支援学級の児童だけにとどまらず、より支援が必要な児童を見極め、情報交換や支援の仕方を協議していく。	
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	B		B	・巡回相談を積極的に依頼し、専門的な先生のアドバイスを指導を活かした。	・今後も、いつで相談できるような体制作りをさらに進める。必要に応じて関係機関につないで、きめ細かな支援に努めたい。	
満足度	25	児童生徒の学校満足度	A		A			